

有明高専

図書館報

No.20



目 次

巻頭言	2
施設紹介	2~3
特集 英語多読	4~6
「私の薦める一冊の本」紹介文	7~9
読書のススメ	10
ブックハンティング紹介	11~12
図書館利用案内	13
美術ギャラリー紹介	14
図書館統計	15
郷土の文化財	16

「読むのが格好いい」空間づくり ～有明高専 図書館の挑戦～

図書館長 燐山 廣志



2015年(平成27年)の春、本校の学生に仲間入りした新入生の諸君、新しい学年に進級した本科生・専攻科の学生諸君、既に季節は春から夏に移行しつつあります。前期中間試験を終え、これから日々をどのように充実させてゆくか、各人の胸裏には様々な思いが交錯していることと思います。

ここで、図書館の業務に携わる人間から一言、[古今東西の書籍との邂逅の時]が学生諸君の一人ひとりに訪れることを願わざにはいられません。願わくば、【運命の一冊】との出会いがこの本校の図書館で実現することを。

そうした折、次のような新聞の記事が目に入ってきました。帝京大学 図書館の取り組みの紹介の一文です。

若者の読書離れが指摘される。「暗い、まじめ、ださい」という図書館への誤解が一因という。そんな印象を打破し、読書の魅力を引き出そうとする試みがある。

〔学びを語る若者の読書離れ「読むのが格好いい」空間づくりを〕

帝京大学メディアライブラリーセンターグループリーダー・非常勤講師、中嶋康さん

読書は一人で読むだけでなく、他人と薦め合ったり評し合ったりする「共読」が大事です。人に伝える過程で情報が再構成され、新たな発見や感動が生まれて理解が深まります。その経験が、さらなる読書につながります。

私の大学でも、近年図書館の貸出数は減少傾向です。そこで、2年前から「共読ライブラリー」というプロジェクトを始めました。読み合い、薦め合い、評し合う「共読」というコンセプトで、大学全体で本を読む環境づくりを目指すものです。

まず魅力的な空間づくりです。図書館の入り口に、黒板でできたおしゃれな本棚を並べました。棚にはゆったりと本を置き、照明で照らします。棚の壁面には、色とりどりのチョークで本のお薦め文がびっしり。学生や先生が書いたものです。著名人が本を薦めるコーナーも。「本を読むのが格好いい」と思われるような空間にしたいです。

〈下略〉

朝日新聞DIGITAL(2015/1/12)

実は、今皆さんが学んでいる有明高専の図書館には、この記事にあるものに負けない、有明高専オリジナルの「読むのが格好いい」空間作りに10年以上前から取り組んでいます。今回はその一部を紹介することにします。

本校の図書館 空間づくりのコンセプトは【本物の木のぬくもりと芸術との出会い】と定め、デザイン・機能性に最大限の努力を払いつつ図書館内にさまざまな仕掛けを作つてきました。どうか、是非図書館に足を運び、自分の目でそれらを味わってくれませんか。そして片手には本を手にして[読むのが格好いい]空間を満喫してください。

【本物の木のぬくもりと芸術との出会い】

1階 美術ギャラリー



無垢材で作られたテーブルと椅子
(H16年導入)

2階 OPAC机と新聞台



木格子で統一された空間デザイン
(H27.3導入)

2階 知の集い処



ガラス張りの開放的な空間と重厚感のある
机と椅子(H26.3導入)

施設紹介

学習閲覧室



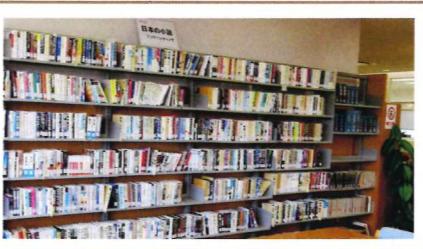
哲学・社会科学・自然科学・小説など一般教養に関する本が並んでいます。閲覧席は、英語多読や文学の授業でも使用します。



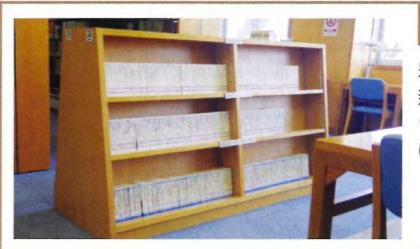
英語多読用の本、約2,500冊が並んでいます。



専門雑誌はもちろん、一般の情報紙もあります。



ブックハンティングで学生が選んだ本が人気です。



岩波新書、岩波ジュニア新書、講談社ブルーバックスは、全て購入しています。

研究閲覧室



学科ごとに必要な本が、棚を分けて並んでいます。



Word、Excelなどが利用できます。レポート作成などにご利用ください。

DVDルーム



55インチの大型テレビを設置しています。図書館で所蔵するDVDを見ることができます。昼夜みに友達誘って映画鑑賞に来る学生の人気のコーナーです。

知の集い処



話ができる学習エリアです。ホワイトボードを使って、グループ学習など、自由に使えます。

書庫

書庫には、あまり利用されなくなった本や、新聞・雑誌のバックナンバーが保管されています。利用を希望する場合は、カウンターに申し出てください。



特集

英語多読

英語多読100万語に挑戦

Q & A

学習閲覧室に英語多読コーナーが新しくできました。

多読用の図書は、英語科の阿嘉先生が選定したもので現在、約2,500冊配架されています。気になる多読の英語学習法について、阿嘉先生に質問してみました。



Q 多読とは、どんな学習法ですか？

多読(extensive/pleasure reading)とは、易しいレベルの絵本などから読み始めて、できるだけ多量の英文を読むことを目指す読書のことです。本を多く読むことでインプットのシャワーを浴びることができるので、「多読は脳内留学!」と絶賛する研究者もいます。多読では、英文の文法や単語を分析しながら細かい部分まで読む、いわゆる精読(intensive reading)による学習方法とは異なり、自分のレベルに合った本を、日本語を介さず読み進めていくことを目指す学習方法です。

教科書の精読を通して、中学3年間で触れる英語の量は約5,000語、高校では約20,000語であり、6年間で触れる英語の量はペーパーバック(小説)で換算するとおよそ70ページ程度にしかなりません。

この分量では、残念なことに、英語習得に必要なインプットとしての量は圧倒的に不足しています。分速100語で読む学習者であれば、1~2時間で5,000語程度読むことができます。多読を実践することで、直読直解の能力が身に付き、さらには未知語の推測もうまくできるようになります。このような能力は、英語学習に必要不可欠であり、多読によって量をこなしていくことしか培うことができません。

英語の学習方法には日々ありますが、英語を上達させるためには、膨大な時間がかかります。まずは、自分なりのペースで、自分の興味やレベルに合った本を選び、そして何よりも楽しみながら読むことで継続した英語学習を続けていくことができるかと思います。

Q どんな本から始めるのがいいですか？

Step 1(目標)日本語訳の癖を取り除こう！

まずはレベル1~4程度の易しい本を100冊読みましょう(有明高専の図書館では、出版社によりレベルが異なるため独自のレベルを設定しています)。その理由は、日本語訳の癖を取り除き、英語が読めている自信をつけるためです。Oxford Reading Tree(ORT) / Foundation Reading Library(FRL)などのシリーズから読み進めることをおすすめします。Oxford Reading Tree(ORT)は230冊程度図書館に貯蔵されていますが、日常会話で使用できるフレーズが多く使われており、また、使用頻度の高い単語は繰り返し使用されているので、語彙の定着に効果的です。Foundation Reading Library(FRL)は初心者には少し語数が多いように思われますが、よく読んでみると既知語が多いのでスムーズに読めると思います。また、主要な登場人物がティーンエイジャーで、高専生には共感する部分が多くあり、読みやすい内容になっているので、このシリーズに「はまる」学生が多くいます。その他、

I Can Read Books / Longman Literacy Land Story Street / Cambridge Storybooks / Ready-to-Read / Scholastic Readers / Step Into Readingのレベル1~4も読みやすいシリーズになっています。

Step 2(目標)自分の好きな本に挑戦してみよう！

易しい本を100冊読むと「自分でも読める!」という自信がつき、どんどんレベルを上げたいという気持ちになるはずです。レベルを一気に上げるのではなく、徐々に上げていきましょう。目安としては、例えば、各レベル10冊程度読んで簡単だと感じたら、次のステップへ進むという感じです。レベルを上げることで、もちろん、本に使用される語数が増え未知語も増えてきますから、もし難しいと感じたときには、ためらうことなくレベルを下げましょう。無理して難しい本を読んでも余り効果は望めません。ある程度多読に慣れてきたら Oxford Bookworms / Penguin Readersなどのシリーズがおすすめです。

Q 多読を楽しむ方法を教えてください

まずは、良い本に出会い読むことの楽しさを実感することが大切です。学生どうしで面白かった本を教えあうという手もありますね。LINEで「多読の会」を作つてお互いに意見交換している高専生も実際にいま

す。このようにお互いを刺激し合いながらおすすめの本を教え合うことで、継続した英語学習を続けることができるかと思います。

A

Q 辞書無しで読んで本当に語彙を増やせるものでしょうか？

英文内の1割が未知語であったとしても絵や文脈からその単語の意味を推測できると言われています。もしくはその1つが分からなくても内容理解に大きく支障を与えることはないかと思います。これは日本語の読書の場合と同様です。頻度の高い単語は本の中に繰り返し出します。そのような単語に何度も会うことで意味を確実なものにしていくことができます。

1つの単語を習得するためには、10~15回程度

その単語に出くわすことが必要です。最初は曖昧に思うかもしれません、何度もその単語に出会うことで、単語の意味がわかつてくるはずです。もし多読の際に気になる単語があるようであれば読後に辞書で意味を確認しましょう。但し、調べることに多くの時間を使ってはいけません。多読の趣旨からはずれてしまいます。せいぜい2~3語程度におさえましょう。しつこいですが、重要な単語は他の本の中で遭遇することができます。

Q 高専生の総語数の目標レベルはどのくらいですか？

自律したリーダーになるためには、100万語(ペーパーバック約10冊)の英語を読む必要があると言われています。1日に1時間(3,000語)の読書でおよそ330日余りかかります。英語をマスターしたいのであれば最終的には100万語を目標にして頑張ってもらいたいと思います。現在1年生で週に2時間多読の授業を行っていますが、年間20万語を目

標にしています。設定理由は、最低でも1年終了時点での英語学習の基盤作りとして「日本語を介さずに読む」「絵や前後関係から未知語を推測する」という習慣を身につけてほしいからです。あくまで目標なので、できる学生はどんどん取り組んで限りなく100万語に近い領域までいってもらいたいと考えています。

阿嘉先生、ありがとうございました。

学生の皆さん、図書館には10語以下の超初級レベルの絵本から何万語もの高レベルの本までそろっています。レベルを上げていくのに役立つように各レベルごとに色分けしたラベルをはっていますので、自分のレベルにあった本を少しづつ読み進めて目標を達成してください。



英語多読コーナー



多読授業の様子

特集 英語多読

主なシリーズ紹介

多読用の図書は、アメリカやイギリスの児童が学習用に読む絵本であるLR(Level Readers)と日本人の英語学習者が読解力に応じて段階別に出版しているGR(Graded Readers)の2種類あります。図書館では、LRとGRの両方のシリーズを購入していますので、興味のあるシリーズやレベルを選んで学習することができます。ここでは、図書館所蔵の主なシリーズを紹介します。



H26年度「私の薦める一冊の本」紹介文 入賞作品

H26年度は、385編の作品が応募されました。これらの作品の中から各学科の教員10名が審査員として選出した優れた作品9編を紹介します。

『理解と誤解』

鈴木 孝夫著

機械工学科5年 今村 匠

この本のタイトル通り、この世は理解と誤解の上に成り立っているのだと思う。このように思う人は少ないかもしれないが、私はこの本を読み終えた際、すぐに私の理解は誤解であるということに気付いた。

この本では作者がそのような不思議体験について、普段とは視点を変えて物事を客観的にとらえることで私たちの体験とリンクさせてくれる。作者はある日、長い間住み慣れている自分の家を初めて隣の家の様々な角度から眺めたとき、そのなんとも言えない不思議な眺めに思わず笑ったのだと言う。毎日過ごしている家なのに視点をかえるだけでそれはおとぎの国の家のような新鮮さとぞくぞくする未知の神秘に包まれた気分になったと言う。

本当の自分でさえ相手にどれだけ理解されているかなど分かるはずもない。更に誤解されていることだってあり得る。しかし、その誤解も加えたものこそが、実は現実的な認識なのかもしれないということなのだろう。

『美丘』

石田 衣良著

物質工学科4年 有働 沙里

美丘…太陽のように周りを明るく照らし、そして火花のように一瞬で散っていく。

命には最初があれば最後があるのは当たり前のことである。

ただ違うのはその期間がどれだけ長いか、そしてその命ある間の人生、どれだけ濃いものにするかである。

一見ラブストーリーかと思われるこの本は実はそれだけではなく私たちに「命」について考えさせてくれる。美丘と太一、ちょうど私たちと同じぐらいの歳である。そんな二人へ迫るのは「死への恐怖」また「大きな決断」であった。幸せに生きるとはどういうことなのか、私たちに教えてくれる。

私たちはすぐに死へのカウントダウンが始まっている。その死がすぐ目の前にあるとしたら、あなたはこれから何を目標に生きていくだろう。目標さえも失われた者たちはどう生きていればいいのか。恐ろしい。だからこそ、今のこの時間を、この瞬間を必死に、そして強く生きるべきではないだろうか。

『葉隱』

山本 常朝著

建築学科4年 山村 和大

「武士道といふは死ぬ事と見分けたり」という言葉は死を連想させるものである。しかし、『葉隱』の口述者である山本常朝はこの言葉を別の意味で用いている。死を覚悟することが、そのまま生につながるという意味で、ここで「死を生に転化」する方法としての「死を覚悟」をみることができる。

『葉隱』を死の哲学と思い込んでしまっているが、この本の素晴らしさは、人間の生き方を教えていることだ。宗教でもなければ道徳でもない。それを超えたところにある人間の美学だ。

『葉隱』は読めば読むほど、いろいろな問題を投げかけてくる。現在に生きる心得のようなものも。

この本を読んで抱く感想は人それぞれ違うと思うが、今までとは違う物事のとらえ方ができるだろう。



『ジーキル博士とハイド氏』

スティーヴンソン著

機械工学科3年 熊谷 知尋

あなたは今までの自分のあり方をどう思うか。私は今、高専生だが今の自分になるためには受験という分岐点があった。高専でなく普通高校へ行っていたら…。中卒で仕事をしていたら…。誰もが今に至るまでには選択をし、一つの道しか歩けないのだ。

そんな中、人は常に光と影の中で生きている。そして人には欲がある。欲は光にも影にも転ぶ事ができる。

失敗をすると後悔をし、成功しても後悔するのが人だ。それは全て欲があるからだ。こうなりたいと思う、もう一人の自分。それになれないでいる現実の自分。常に二つに一つだから物事は進むのだが、この本に出てくるジーキル博士は、自ら作った薬を飲み「ハイド」と名乗り、殺人を犯すことで、博士はハイドに酔い、身を暗闇へ消してしまう…。

人の欲と自分のあり方。どんな立派な人間でもバランスが崩れると自分を失う。そんな当たり前のことこの本は教えてくれる。

H26年度「私の薦める一冊の本」紹介文 入賞作品

『DIVE!!』
森 絵都著

物質工学科3年 江口 渚

十四、十五歳の頃何かを必死に目指して熱中したことはありますか。自分の所属しているクラブが危機である時、救う方法はただ一つ、オリンピック出場。いきなり出くわしたその状況にこれからオリンピックを目指していく上で過酷な日々を送る決心ができますか。

わずか一、四秒の空中演技のためにどれほど練習をすべきか。高さ十メートルの台から前中返り三回半抱え型を成功するべくメンタル面も体力面も技術面も鍛えなければならない過酷な挑戦に挑んだ男の子の物語である。

何か一つを手に入れると、一つ失ってしまう。失ったものがどんなに大切であっても決して後悔することなくひたすら夢に向かっていく無我夢中な姿が描かれている作品である。時が過ぎるごとに大きな目標を得ていく主人公の心の変化にも注目してもらいたい。

そして夢は無限にあるということ、いくらでも努力次第で目標は高くすることができるということに気づいてほしい。

『すいかの匂い』
江國 香織著

電気工学科2年 一木 健人

照りつける太陽、陽炎をつくりだすアスファルト。おまけに、狂ったように鳴き喚くセミ。私は夏が好きではない。夏の嫌いな点はたくさんあるが、なにより暑いのが苦手だ。

そんな私も、小学生の頃は夏が好きだった。「夏休みの季節」というだけで、毎日八時に家を飛びだし、夕暮れまで友達と遊ぶ元気が沸いてきた。夏休み最終日に、担任の教師を逆恨みしながら宿題を解いたこともあった。

物語に登場する十一人の少女達も、一人一人、忘れられない夏の思い出がある。必ずしも楽しい思い出ばかりではないが、かけがえのない記憶として、少女達の心に刻み込まれてゆく。自分の思い出と照らし合わせて読み進める内に、フィクションは現実味を帯びる。今日も日本のどこかで少女達は生きている。ひっそりと。

『論語』

電子情報工学科3年 戸川 一路

「論語」には、孔子が弟子に語ったことが記されている。それは政治のこと、正しい人間とはどんな人か、祭りの作法など、様々なことについて語っている。

読んでいて気付いたが孔子は宗教についてあまり話さない。「論語」は儒教の経書だからとても不思議に思った。講師は春秋・戦国時代の人間だ。法も道徳もままならない乱世で、孔子はあえて治を語ったのだろう。いかにして世が平和になるか。どんな人間が世の中を率いるべきなのか。孔子が語ったことは今でも「論語」によって語り継がれている。

しかし、今の時代になんでも、この世の中から争いがなくならないのはなぜだろう。どんな人間にも善惡の基準はあるだろうに。結局、孔子の言うことは夢物語なのだろうか。皆が皆賢くはなれないだろう。だが誰にでも望みはある。必死に自分の考えを探そうと、乱世に立ち向かった孔子の勇気を、この本を読んで感じられない者はいないと信じる。

『かもめのジョナサン』
リチャード・バッカ著

建築学科2年 鏡池 佳英

私がこの本を読んだきっかけとなったのは、THE・HIGH-LOWSの「十四才」という曲。その中で甲本ヒロトはこう言っている。「リアルよりもリアルティ」。餌をとるために飛ぶかもめの群れのリアル。反感を買いつながらも、生きていることを感じるにただスピードを求めて飛び続けるジョナサンのリアリティ。

集団の中、周りと違う自分で居続けるのは、とても勇気のいることである。この物語の主人公ジョナサンは、勇気と信念、そして愛を知る勇敢なかもめである。

「われらすべての心に棲むかもめのジョナサンに。」表紙をめくると、この一文から物語が始まる。あなたの心に棲むジョナサンは何を求め、何を信じて飛んでいるか。一羽のかもめのように強い意志と静かな勇気を持って飛ぶことはできるか。何気無く過ぎていく日々の中、私たちに「生きる意味」を探させてくれる物語。

H26年度「私の薦める一冊の本」紹介文 入賞作品

『The Future is WILD』 ドゥーガル・ディクソン著 建築学科2年 宮田 紳太郎



もし地球上から人類がいなくなったら、地球はどうなるか考えたことはあるだろうか。

この物語はそんな仮説をもとに地球科学や動物学、気候学など様々な分野のエキスパートたちが、五百万年後、一億年後、二億年、それぞれの地球、それぞれの時代の動物たちの姿を明確に、詳細に描く。

全ての大陸が一つとなった二億年後の地球海上に自分たちでコロニーをつくり、生活するクラゲたちや、それと共に生存するウミグモ、鳥を擬態によって捕え、捕食する虫たち、四枚の翼で標高一万メートルを飛行する鳥、陸上を八トンの体、八本の足で闊歩する巨大なイカなど読んでいて、好奇心が止まらない。

五百年後、一億年後、二億年後の誰も創造すらできないような地球の姿が壮大なスケールで描き出され、読者に動物の生命力の凄まじさ、動物が長い時をかけて行う進化という行動のスケールの大きさを教えてくれるとしても衝撃的な一冊である。

■審査員講評

●機械工学科 原慎 真也先生

今回で2回目の審査をさせて頂きました。今年度から本コンクールも自由応募となり、強制力が働くためか?、腕に自信のある学生さんからの投稿が多く、ハイレベルな作品ばかりで審査する方としては大変苦労させられました。公平な審査を中心つけたつもりですが、そこは人が判断する事なので、甲乙付け難い所では私の好きなジャンル、作家、表現法に多少傾いたところもあったかもしれません。残念ながら入賞を逃した皆さん!チャンスは必ずあります。提出し損なった人も含め次回は是非挑戦して欲しいと思います。人には沢山の能力があると言われています。本校を卒業し新聞編集者になられた先輩や、私の母校の高専では直木賞を受賞された先輩もおられます。例え優れた能力を持っていたとしても、若い今の時期に「刺激」を与えるべきはその能力は芽を出してくれません。君の才文发掘のため「読む刺激、書く刺激」も与えてみよう。そう、今しかないのです。さあ、今日からブックハンティングですよ!

●物質工学科 出口 智昭先生

今回、多くの学生さんがブックレビューを提出してくれたので読むこと自体大変でしたが、良い作品が多く内容も面白く、読む作業は比較的楽しいものでした。そして、レビューを読んで実際にその本を読んでみたくなったのが多數ありました。しかし、審査員としていくつかの優秀作品をたくさんの中から選ばないといけことが一番大変でした。紹介された図書の中には「もののづくり」や「各学科の専門」に関する図書もあり、興味を持つ点が高専生ならではというものもありました。このブックレビューのように全体の内容を明かさず、自分の言葉でその本の良さを伝えようとすることは難しいことですが、入選したレビューは非常に興味深く、多くの審査員の先生を引き付けたものです。ぜひ皆さんレビューを読んで、さらに興味があればその図書を読んでみてください。

●建築学科 薫 敏和先生

平成21年度、平成22年度に続き、三回目の審査になります。この企画の目的は、「学生の皆さんが読書に興味を持ち、図書館を積極的に活用する」ことにあります。今回、385点も応募があり、多くの学生が読書に興味を持った表れでしょう。今後、その中から選ばれた9点の紹介文を読んで

学生諸君が図書館を積極的に利用されることでしょう。殆どの作品が、まず書籍の概要を述べ、次に書籍の特徴的な部分を列記し、最後にぜひ読んで欲しいと請願するという構成になっており、興味深いものでした。400字というと、長いですが、書き始めると案外紙面が足りなくなってしまい、編集を余儀なくされるものです。したがって、編集能力も問われます。ただ、数ある書籍の中から、なぜその一冊を選んだのかについて述べているものは少なかったように思います。

個人的には、膨大な書籍を片っ端から読破するのは面倒であり、なぜそれを選んだのかについては非常に興味のあるところです。

●一般教育科 阿嘉 奈月先生

どのくらいの学生が“自分のことばでまとめる”ことを意識しながら、ブックレビューを書いたでしょうか?それを考慮した素晴らしい作品も多々見られましたが、中身が似通つたものもいくつか見受けられました。さらには、本に書かれた文をそのままもってきたような印象を受ける作品もありました。

他人のことばをあたかも自分が作り出したかのように使用することを剽窃(ひょうせつ)といいます。ネット社会が拡大するなかでも、このような行為は決して許されることではありません。自分なりの易しいことばを使用し、読み手を納得させるようにまとめてることで、素敵なブックレビューを仕上げができるかと思います。

そのためにお勧めしたいことは、学生どうしての本に関する意見共有です。書き始める前に、互いに本の紹介をすることで、頭の中で本の内容について整理することができ、書くことを円滑に行えます。また、まとまりのある文章を完成させることにもつながると思います。

●一般教育科 福田 尚広先生

今回、多くの紹介文を読ませていただきました。本の主人公を自分に照らし合わせ、共感できる部分や、自分との違いについて述べている紹介文が多かったように感じます。紹介者の思い入れや感銘を受けた点などが強く伝わってくる紹介文は、読んでいて惹き込まれました。また、審査をしていて、同じ本の紹介文でも紹介者によって感じ方が大きく異なる点が非常に面白かったです。印象に残った作品については、これから私も読んでみたいと思いました。

読書のススメ

菱岡先生の読書のススメ

読書はつまらないという学生がいる。まだ若いのにそう断言するのは、あまりにもったいない。話を聞いてみると、漫画やアニメ、映画は好きだという。それなら大丈夫。物語に興味があるのならば、かならず小説も楽しめる。漫画すら苦手という人でも、歌(音楽)が好きな場合がある。なるほど、散文ではなく韻文が好きなわけだ。それなら歌集や詩集を手に取ればいい。つまり、読書がつまらないという人は、今まで面白い本に出会っていないだけ。世の中には、あなたに読まれるのを待っている、すこぶる面白い本が山もある。

では、どうやってその本に出会うのか?これが簡単そうでもむずかしい。というのも、好みは人それぞれであって、万人にオススメの本などないからだ。逆に言えば、好みさえ分かれば、その好みに合った本を紹介することは可能になる。

幸いにして、これは面白かった、と思える本に出会えた人は、その著者の作品をぜんぶ読めばいい。きっと二匹目のどじょうがいる。全作品を読み終えたら、どの作品が一番好きか考えてみる。世間の評価も他人の意見も関係なく、とにかく「自分が」好きな作品を選ぶ。その作品を、もう一度読んでみよう。初読のときにはわからなかったことに、全作品を読んだあなたなら、きっと気がつくはず。自分だけのベストを持っているあなたは、もういっぱいし

の読書家だ。そのころには、好きな作者が影響を受けた作品や、作風の近い小説が気になっているはず。あとは興味にしたがって芋づる式に読んでいけばいい。

さて問題は、今まで面白い本を一度も読んだことがないという人だ。ひとつ悟らなければならないのは、この世のあらゆる喜びは、苦しみとともににあるということ。1頁目から文句なしに面白いと思える小説には——特に読解力の不足しているあなたは——なかなか出会えない。だから、最初の一冊を見つけるために、友人知人親兄弟先生師匠先輩後輩爺婆幽霊類人猿だれでもいいから、自分とフィーリングの合う、じんわりと親しみを覚える人に、好きな本を聞いたらい。そして、その本を買い(借りない)、読む。その本だけは、どんなに最初がつまらなくても、最後まで読み切る。おそらく、フィーリングの合う人の好きな本は、きっとあなたに向いている。仮に最後までつまらなくても、あの人はこんな本が好きなんだ、とわかつただけでも損にはならない。ピンと来なかつたら、正直に、本人にそう話したらい。実際に本を読んだあなたには、きっと通り一遍ではない、一段深いその人なりの想いを話してくれるはず。これを繰り返せば、お気に入りの本にきっと出会える。あとは、その著者の全作品を読めばいい。

簡単な話だね。さあ、いますぐやってみよう。



菱岡先生の推薦図書コーナー

菱岡先生が読まれた本の中で、学生の皆さんにお薦めの本を並べています。菱岡先生が学生の皆さん向けに難易度をつけて、推薦する図書リスト「独断と偏見の読書案内」も置いていますので、読書のきっかけ作りに参考にしてみるのもいいと思います。

是非、図書館に足を運んで、お気に入りの本を見つけてください。

文友会

私たち文芸愛好会は、オープンキャンパスや高専祭の度に毎回部誌『不羈』を発行しています。

「不羈」とは、縛めから解放された馬を指します。転じて、自由奔放であるということも意味します。

この誌題も当然、後者の意味から来ています。つまり、これは「私たちは型にはまらない自由な創作活動を行う」という意思表示なのです。

縛めから解放されたからと言って、全ての馬が奔放に走り出すわけではありません。厩に残ることを望む者もあるでしょう。それが悪であるとは言いません。ただ、私たちは創作者として、出来るだけ自由であり、そして新しい者でありたいと思っているのです。



ブックハンティング図書紹介

●ブックハンティングに参加しよう!

ブックハンティングとは、学生の皆さんが直接書店に行って図書館に置く本を選ぶイベントです。ブックハンティングで選んでもらった本のコーナーは、貸出率が高く、人気のコーナーとなっています。

大きな書店で新しい本に出会うチャンスです。
毎年、希望者を募集しますので、今年は参加してみてください。

場所:丸善ジュンク堂書店 福岡店(天神)

参加資格:本校の学生でしたら誰でも参加できます。

交通費支給



●H26年度に参加した学生7名の本の紹介です。



建築学科3年
三小田 智美さん

『それでも僕は
夢を見る』
河野裕 著(新潮文庫)



電子情報工学科3年
関 将敏さん

『いなくなれ、群青』
河野裕 著(新潮文庫)



物質工学科4年
江崎 智美さん

『りぼぐら!』
西尾維新 著(講談社)



建築学科3年
納富 加奈子さん

『心に響く小さな
5つの物語』
藤尾秀昭 著
(致知出版社)



物質工学科2年
森 古都音さん

『世界伝説と不思議の物語』
アフロ・アマナイメージズ著
(パイインターナショナル)



機械工学科4年
松本 麻耶加さん

『殺人出産』
村田沙耶香 著
(講談社)



電気工学科5年
山田 教太さん

『権現の踊り子』
町田康 著(講談社)

書名	書名
1 ひとさらい	15 ねじの回転
2 権現の踊り子	16 あやかし飴屋の神隠し
3 嘘みたいな本当の話:「日本版」ナショナル・ストーリー・プロジェクト	17 ボッコちゃん
4 毛沢東からジョン・レノンまで	18 いなくなれ、群青
5 発達障害のいま	19 ココロ・ファインダ
6 アメリカとフランスの革命	20 悲業伝
7 世界史	21 悲報伝
8 本居宣長:文学と思想の巨人	22 さよならクリストファー・ロビン
9 「欲望」と資本主義:終りなき拡張の論理	23 それでも僕は夢を見る
10 聖書の常識	24 何のために生まれてきたの?:希望のありか
11 本棚探偵の生還	25 犬も歩けば物理にあたる:解き明かされる日常の疑問
12 疫病と世界史	26 チューリングと超(メタ)パズル:解ける問題と解けない問題
13 毒になる親:一生苦しむ子供	27 ゼツメツ少年
14 やめられない心:毒になる「依存」	28 アクアマリンの神殿

ブックハンティング図書紹介

書名	書名
29 江戸幕府と儒学者：林羅山・鷺峰・鳳岡三代の闘い	51 私の嫌いな探偵
30 凶悪犯罪者こそ更生します	52 初恋料理教室
31 低地	53 心に響く小さな5つの物語
32 江戸尾張文人交流録：芭蕉・宣長・馬琴・北斎・一九	54 眼の海
33 ヒトラーからヘミングウェイまで	55 超訳ニーチェの言葉 = Die weltliche Weisheit von Nietzsche
34 小森谷くんが決めたこと	56 紙の月
35 プリズム	57 明日の子供たち
36 戦力外捜査官：姫テカ・海月千波	58 一瞬で心をつかむ話し方：「気持ち」を伝えて「信頼」を勝ち取る74のテクニック
37 スーパー・ポジティブ・シンキング：日本一嫌われている芸能人が毎日笑顔でいる理由	59 殺人出産
38 りぼぐら!	60 ねこ
39 オン・ザ・ロード	61 高校生からのバイオ科学の最前線：iPS細胞・再生医学・ゲノム科学・バイオテクノロジー・バイオビジネス・iGEM
40 know	
41 ジョン、全裸連盟へ行く	62 ムラムラする宇宙
42 幸福な生活	63 世界の美しい透明な生き物
43 浄土	64 世界伝説と不思議の物語：不思議と驚き、逸話がつづる魅惑の名景
44 わたしが正義について語るなら	65 名景世界遺産：自然遺産編 - 水辺編
45 逆転力：ピンチを待て	66 総理大臣暗殺クラブ
46 僕とおじいちゃんと魔法の塔	67 ナミヤ雑貨店の奇蹟
47 うれしい悲鳴をあげてくれ	68 密会
48 シンメトリー	69 ひらいて
49 推定脅威	70 茶スイーツ
50 どんがらがん	71 イカラス・レポート

図書購入リクエスト箱



ブックハンティングの他、学生のみなさんが読みたい本の購入をリクエストすることができます。

館内に設置している「図書購入リクエスト箱」に読みたい本のタイトル等を記入して申し込みしてください。

予算の関係上、全てを購入できるわけではありませんが、学習用の図書を優先するなどして、できる限り購入するようにしていますので、是非利用してください。

図書館利用案内

開館時間

月曜～金曜 8:30～20:00
土曜 10:00～16:00
長期休業中の月曜～金曜 8:30～17:00

休館日

日曜・祝日
長期休業中の土曜
夏季一斉休業日・年末・年始
その他、図書館長が指定する日

資料の利用について

◆読む 閲覧
書架にある資料 / 自由にご覧ください。

書庫にある資料 / 図書館カウンターに申込みしてください。

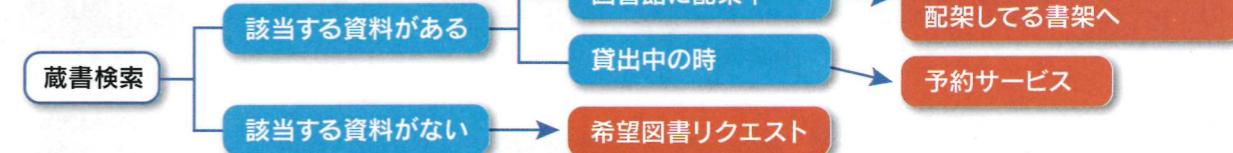
◆借りる・返す 貸出・返却

図書・雑誌を借りる場合は、**学生証**と借りたい資料を持って、カウンターで手続きしてください。
借りた資料は、返却期限内に図書館のカウンターに返却してください。

	図書	雑誌	多読図書
通常貸出	5冊／2週間	3冊／2週間	5冊／1週間
	夏季、冬季、春季の長期休業中は、休み明けまでの長期貸出をしています(学生のみ)		
卒研貸出(5年生対象)	2冊／2月末日まで	—	—
専攻科貸出(専攻科生対象)	2冊／2月末日まで	—	—

★返却期限を超過している図書・雑誌が1冊でもあると、新たに貸出することができませんので、注意してください。

●資料の見つけ方



資料が見つからない…
探し方が分からぬ…

そんなときは図書館スタッフがサポートします

蔵書検索の方法や、配架場所、資料の調べ方など、分からぬことがありますれば、気軽にカウンターに相談してください。

“知の集い処”の利用方法

利用を希望する場合は、カウンターで申込みをしてください。
利用時間は1時間で、次の予約がなければ延長できます。

DVDルームの利用方法

利用を希望する場合は、カウンターで申込みをしてください。
視聴できるAV資料(DVD等)は、図書館で所蔵するものです。

Webサービスの利用

図書館HPでは、以下のことができます。

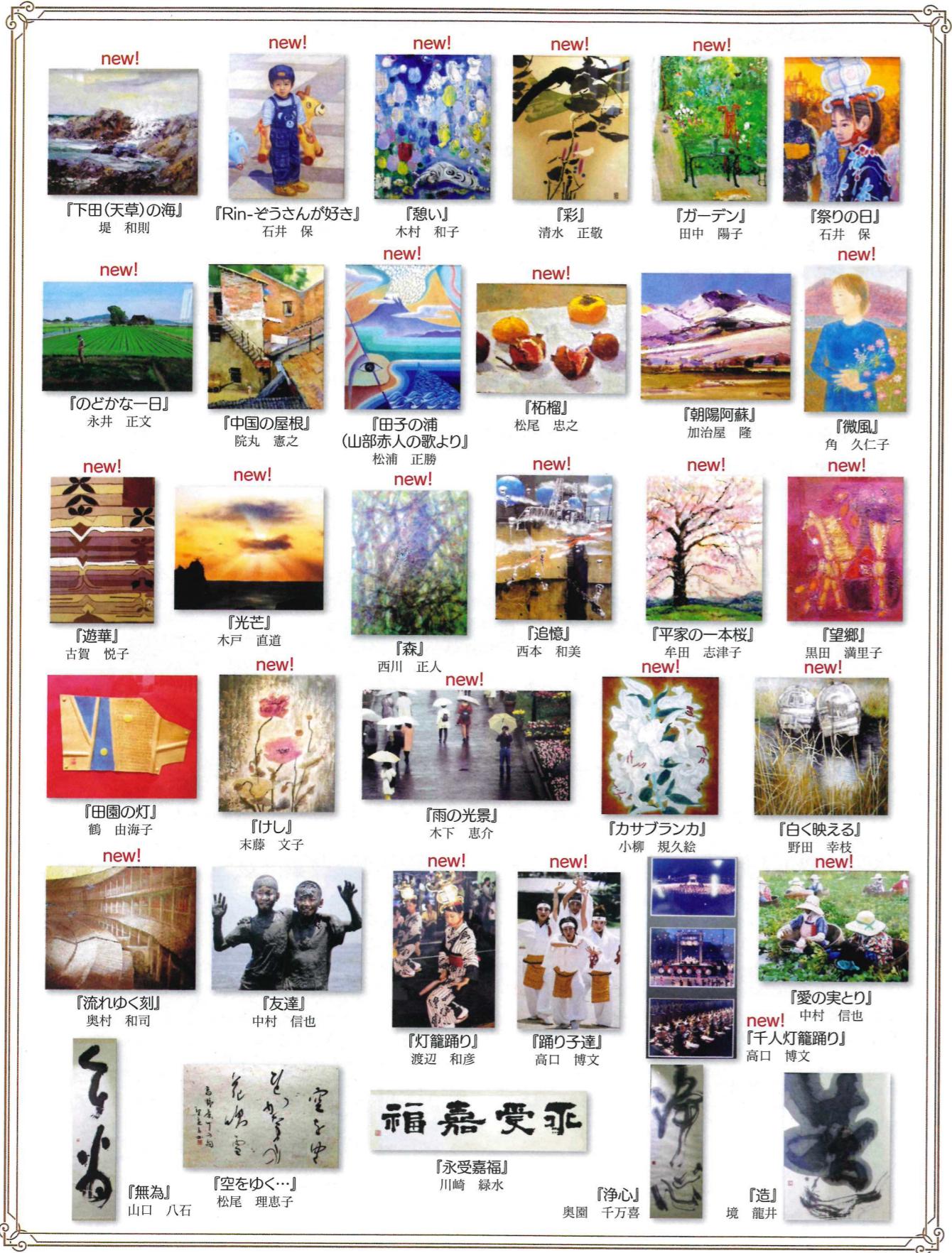
- 蔵書検索
 - 貸出予約状況照会
 - 電子ジャーナル・データベースの利用
 - お知らせ、案内等
- <http://www.or.ariake-nct.ac.jp/lib/>

学外利用の方へ

図書館は、学外の一般市民の方にも広く開放しています。
公的機関発行の証明書(運転免許証、健康保険証など)
ご持参の上、登録手続きをしてください。
本校学生、教職員と同じ条件で、館外貸出もしています。



2015年度美術ギャラリー作品紹介



2014年11月22日 作品入替

図書館統計

利用状況 平成25年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	24	25	26	19	19	26	23	21	21	21	19	269
入館者数 総数	3,593	5,064	4,862	6,227	2,952	2,643	3,650	5,280	3,019	4,906	4,245	1,553	47,994
(内夜間)	661	1,511	979	1,664	326	0	767	1,332	654	1,282	630	0	9,806
(内土曜日)	123	164	305	250	96	0	165	163	41	88	149	0	1,544
1日平均	143.7	211.0	194.5	239.5	155.4	139.1	140.4	229.6	143.8	233.6	202.1	81.7	178.4
貸出冊数 総数	348	366	271	370	226	218	324	271	282	383	290	62	3,411
(内夜間)	57	101	78	124	34	6	94	60	87	157	59	4	861
(内土曜日)	9	14	7	13	4	0	6	18	3	9	5	0	88
1日平均	13.9	15.3	10.8	14.2	11.9	11.5	12.5	11.8	13.4	18.2	13.8	3.3	12.7

平成26年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	24	24	25	26	18	20	26	22	21	20	22	21	269
入館者数 総数	2,652	4,744	4,883	6,282	2,634	3,187	5,379	6,241	4,147	5,346	4,745	1,518	51,758
(内夜間)	524	1,035	1,098	1,442	318	53	896	1,224	733	1,259	720	0	9,302
(内土曜日)	84	306	179	400	76	0	146	325	85	89	224	0	1,914
1日平均	110.5	197.7	195.3	241.6	146.3	159.4	206.9	283.7	197.5	267.3	215.7	72.3	192.4
貸出冊数 総数	360	197	120	261	263	321	342	309	350	672	247	344	3,786
(内夜間)	127	34	1	70	99	92	130	60	24	121	68	49	875
(内土曜日)	17	24	21	21	10	0	35	28	17	12	4	0	189
1日平均	15.0	8.2	4.8	10.0	14.6	16.1	13.2	14.0	16.7	33.6	11.2	16.4	14.1

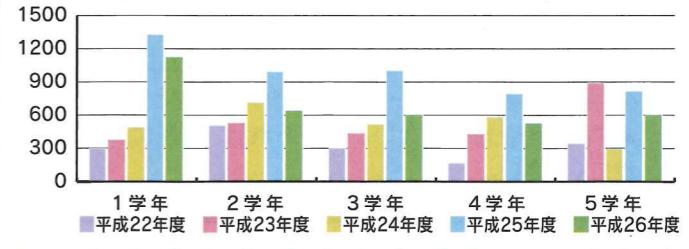
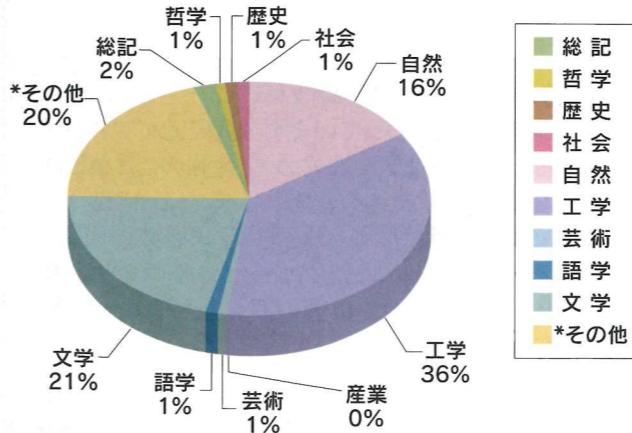
分類別図書貸出冊数の推移

年度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学	産業	芸術	語学	文学	*その他	合計
平成22年度	104	64	23	32	754	1,632	2	48	53	968	908	4,588
平成23年度	146	80	48	60	624	1,594	4	41	58	1,153	640	4,448
平成24年度	110	36	57	44	590	1,519	1	46	58	917	545	3,923
平成25年度	100	41	71	48	559	1,271	9	50	94	848	320	3,411
平成26年度	60	24	89	68	561	892	5	53	181	595	1,258	3,786
平均	104	64	23	32	754	1,632	2	48	53	968	908	4,518

*「その他」は、文庫・新書および雑誌の貸出冊数を示す。

利用状況の推移

年度	開館日数	利用登録状況		入館者数		貸出冊数		1日当たりの数値		1人当たりの数値		
		総数	(内学生)	(内教職員)	(内学外利用者)	総数	(内夜間土曜日)	総数	(内学生のみの貸出冊数)	(内夜間土曜日)	(内学外利用者)	(1日当たり)
平成22年度	277	1,321	1,083	174	64	57,317	13,146	4,588	4,102	1,449	179	206.9
平成23年度	273	1,324	1,082	176	66	54,967	11,869	4,448	4,086	1,055	143	201.3
平成24年度	270	1,585	1,086	237	73	52,282	9,848	3,923	2,040	1,019	78	193.6
平成25年度	269	1,280	1,082	123	75	47,994	11,350	3,411	3,061	949	32	178.4
平成26年度	269	1,277	1,082	120	75	51,758	11,216	3,786	3,362	1,064	189	192.4



郷土の文化財

宇今山普光寺本堂

明暦2年(1656) 大牟田市今山



正面



古写真

福岡県大牟田市、三池山の中腹にある宇今山普光寺は臥龍梅(福岡県指定天然記念物)で有名で、梅の花の季節には多くの参詣者で賑わう。寺の歴史は古く、平安時代の弘仁14年(823)に嵯峨天皇の皇子三毛從三位中納言源師親により開かれたと伝わる。天台宗の古刹である。

現在の本堂は棟札から江戸時代前期の明暦2年の再建であることが分かる。その再建では三池藩2代藩主立花種長が大檀那となり、大工棟梁大城彦右衛門、小工十五人が関わっていた。

平面は3間四方で、屋根は寄棟造である。平面の中央部分には4本の円柱が立ち、それらに注目すると1間四面堂に見える。しかし、正面寄りの1間通りとその奥との境には建具が入っているので、外陣と内陣に分けられた密教本堂の平面形式を現している。さらに、その内陣を中央間と両脇間に分けている。

中央間の奥に安置されている厨子の入母屋造の屋根は大きく、本堂の規模に対応していない。厨子の彫刻は本堂のそれよりも古いので、厨子は江戸時代前期よりも古く、江戸時代初期と推測される。その頃は当地を治めていた柳川城主田中吉政の援助を受けており、田中吉政が秘仏を祀る厨子の再建に関わったと考えられる。

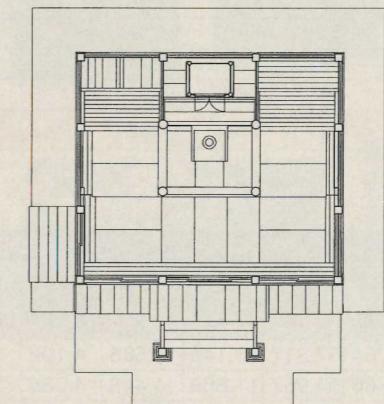
本堂の正面に設けられている向拝は、当初ではなく、およそ150年後の江戸時代後期に設けられた。現在のような切妻造に改造されたのは昭和2年と推測される。

普光寺本堂は福岡県内に残る数少ない江戸時代前期に遡る古い建物で、特徴的な平面構成を示す密教本堂として貴重である。

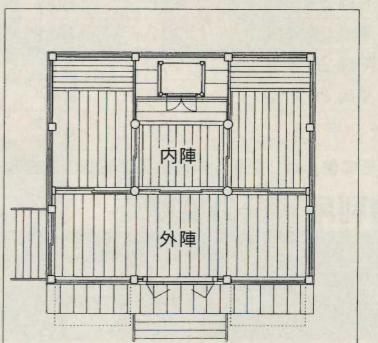
(建築学科 松岡高弘)



内陣厨子



現状平面図



復原平面図

編集後記

図書館は、図書館長の焼山廣志先生、図書情報部員の菱岡憲司先生、事務職員の渡邊と4月より新しく担当になった奥苑登志子さん、夜間アルバイト学生6名で運営しています。

図書館スタッフは、先生方も含めて皆さんのが少しでも図書館を楽しく、気持ちよく使えるように、環境を整備し、学習のサポートもできたらいいなと考えています。要望や分からぬことがありますれば、気軽に声をかけてください。

17時から20時までは、専攻科の学生さんに、カウンター業務をしてもらっています。先輩としてアドバイスできることもあると思いますので、勉強のことなど質問してみるのもいいかもしれません。

図書館は、学習以外でも小説や趣味娯楽の図書・雑誌もそろえています。またグループで映画を見たりすることもできますので、学習の間の息抜きにも是非利用してみてください。

(図書情報係 渡邊真由美)